

## 2号炉 長期施設管理方針

No	施設管理の項目	実施時期
1	<p>事故時雰囲気内で機能要求されるケーブル*の絶縁特性低下については、評価寿命までの取替または型式等が同一の実機同等品を用いて60年間の通常運転および事故時雰囲気による劣化を考慮した事故時耐環境性能に関する再評価を実施する。</p> <p>*：難燃PNケーブル</p>	中長期※ <sup>1</sup>
2	<p>原子炉圧力容器等*の疲労割れについては、実績過渡回数の確認を継続的に実施し、運転開始後60年時点の推定過渡回数を上回らないことを確認する。</p> <p>*：疲れ累積係数による低サイクル疲労の評価を実施した全ての機器</p>	中長期※ <sup>2</sup>
3	<p>原子炉圧力容器円筒胴（炉心領域部）の中性子照射脆化については、今後の原子炉の運転サイクル・照射量を勘案して第3回監視試験の実施計画を策定する。</p>	中長期※ <sup>2</sup>
4	<p>肉厚測定による実測データに基づき耐震安全性評価を実施した炭素鋼配管の腐食（流れ加速型腐食）については、今後の実測データを反映した耐震安全性評価を実施する。また、設備対策を行った場合は、その内容も反映した耐震安全性評価を実施する。</p>	中長期※ <sup>2</sup>

※1：平成31年2月10日から10年間

※2：策定後から運転開始後40年時点まで